

## 平成25年度 新宿区多文化共生まちづくり会議

### 第3回「外国にルーツを持つ子どもの教育環境の向上」部会 議事概要

日 時 平成25年5月27日（月）10:00～12:00

場 所 新宿区役所第一分庁舎 6 F 研修室A

出席委員 川村委員、李委員、山脇委員、藤田ラウンド委員、小島委員、センブ委員、シュレスタ委員、小林委員、栢木委員、盛委員、リコ委員、梶村委員、本多委員、乾委員  
14名

欠席委員 金 世煥委員 1名

#### 1 開会

#### 2 ワーキング・グループの設置について

議論を深め、部会の運営に資するため、任意出席のワーキング・グループを設置する。

#### 3 就学前～小学校の子どもたちについて

部会員で意見交換を行った。

- ・母語（話し言葉）の獲得が、その後の言語習得に大きく影響する。
- ・保育士や幼稚園教諭から外国人保護者に対し、日本語でも親の母語でも構わないので、1つの言語で、子どもによく話しかけるよう伝える。
- ・外国にルーツを持つ子どもが多く通う園からのお知らせは多言語化されている。伝わらない部分を少しでも減らせるよう、日常的に丁寧なコミュニケーションをとる。
- ・子どもが自分（ミャンマー）の母語を忘れてしまうのではと心配で保育園に入れるのを遅くしたところ、小学校入学時にも日本語がまだ習得できておらず、勉強に苦労していた。そのため、下の子どもは生まれてすぐ保育園に入れたところ、日本語を問題なく習得したが、母語が失われてしまった。
- ・日本で生活していくなかで母語（外国人の親とのコミュニケーション言語）を失わないようサポートできないか。
- ・言語習得には家庭教育が大きく影響してくる。区の施策でどこまで家庭内に入り込めるか。区の既存の子育てサポートに、外国にルーツを持つ子どもとその保護者という視点を入れると良い。
- ・外国にルーツを持つ子どもを受け入れた経験のある園のノウハウを、区立の全園で共有

できると、保育士や幼稚園教諭のブラッシュアップにつながる。

- ・外国人保護者自身も外国での子育てに不安を抱えている。聞き取り等、どういう思いで子育てしているのか、意見を反映した施策にできると良い。

- ・母語を失わないためにも、外国人学校の設立について要件緩和できないか。

- ・外国人学校の設立にまで区は介入できないが、母語教室のような小規模なサポートがあれば有効ではないか。

- ・母語教室には、外国語を勉強してみたい日本人の子どもも受け入れると、国際理解と交流の場になって良いのではないか。

- ・日本も加盟しているOECD（経済協力開発機構）では、各国の教育について国際比較調査をしている。日本が、外国にルーツを持つ子どもに対して、国レベルで行っているのは、小学校から高校にかけての支援のみである。新宿区ではさらに就学前のサポートに力を入れているというメッセージを発信できれば意義深い。

- ・外国にルーツを持つ子どもに対しては、母語や自分のルーツのある国の文化に興味を持ってもらいたい。そしてホスト国である日本の子どもには、出身国や言語、人種など違いに対する寛容さを身につけてほしい。

### 3 事務局からの報告

- ・日本語学級の新設（新宿中学校）

- ・日本語加配教員の配置（柏木小学校）

### 4 閉会